

山行番 NO. 1658
日時 2015. 10. 03 (土) ~ 05 (月)
山域 北ア・五竜岳 (2814m) ~ 鹿島槍ヶ岳 (2842m)
参加者 後藤、浜道、掛橋 = 3名

「厳しいキレットと岩稜の縦走は気力と腕力」

2日目 = 10. 04 (日・霧強風~晴)

コース 起床4:30 - 山荘発6:06 - 五竜岳7:15~25 - 北尾根の頭9:19 - 口ノ沢のコル9:36 - キレット小屋10:47 - 鹿島槍ヶ岳・北峰12:19 - 南峰12:57 - 冷池山荘着14:46 (泊)

標高差 上り = 五竜山荘約2500m ~ 五竜岳2814m = 約314m
キレット小屋約2470m ~ 鹿島槍ヶ岳2842m = 約372m
下り = 五竜岳2814m ~ 最低コル約2400m = 約414m
ほか = 上り・下り多数

暗く寒い早朝、「どうも小雨のようだ」とCLが言った。「はあっ？」昨日は雲一つない素晴らしい青空だったのに、なぜ？耳を疑ってしまった。そういえば昨晚 山荘のスタッフが登山客と天気が悪くなりそうな話をしていて。ネットで情報を得ていたと思うが、何かの間違えと思うような話で気にも留めなかった。しかし現実になってしまった。

CLは「どうするか?!」と言う。今日訪れるところは岩場続きの厳しいところと聞いている。私は一瞬、止めたいと思った。雨は絶対に滑る。怪我をするのは嫌だ。取りあえず朝食のお弁当を食べる。(五竜山荘の朝食時間は5時半からだった。知ったのはお弁当を貰った時だった。確認ミスで、温かいお茶が飲めなくて申し訳なかった。冷池山荘は5時から朝食だった。) 6時出発の予定どおり準備をする。夏のウェアの上にフリース、そしてレインウェアと手袋を着用して外に出る。霧だ。雨は降っていない。夜半、雪もちらついたような話が聞こえる。

昨日、白馬五竜テレキャビンに駐車した時、全員でアイゼンを置いてきてしまった。少しでも荷を軽くしたかったからだ。初冠雪に出会ったら戻るしかない。ヘッドランプは必要ないくらいの明るさだ。「とにかく、五竜岳に行こう」とCL。武田菱のロゴの五竜山荘(2490m)を後にした。

寒くて、風も冷たい。耐えられないのでバラクラバ(目出し帽)を被る。昨日の浮かれていた心に暗雲が立ち込める。暫く行くとヘルメットを着用した登山客に出会う。やはり必要と思う。平坦な場所でヘルメットの着用を指示された。朝早々苦しい上りだ。1時間ほど 足元しか見えない岩場の上りを上がった所で、標柱が見えた。

ここが五竜岳かしら？それにしても貧弱な標柱だ。古びた木の柱。よく見てみると「後立山縦走路」と書いてある。近くの石に小さく「←ピーク」あらまあご親切に。頂上は5分もしない先に在った。霧のお蔭で五竜岳山頂(2814m)を見落としそうだ。

頂上から下り、キレット方面への分岐に差し掛かった。ここに至るまで遭遇する登山者同志と情報交換してきたが、決め手がない。周りの天候の状況は変わらず。霜柱もあり、濡れた岩は要注意

だ。この分岐からはすでに夏の営業を終了したキレット小屋まで下りだ。もし、何かあったら、キレット小屋で避難は出来ない。キレット小屋まで下りたら、冷池山荘に行くしかない。キレット小屋を過ぎたら、五竜山荘まで戻る方が大変だ。(この事実、私はよく分かっていなかった。この夕



五竜山荘



五龍岳

厳しい縦走



雷鳥 (雌)



イムアウトは体力と気力がない人には大変厳しい宣告だ。呑気で良かったのか?) CLの「取り敢えず少し下ってみよう」の言葉に取りあえず様子見かな。とずるずると下る。岩場用の手袋が濡れて手が冷たい。

途中で出会う登山者はキレット小屋の最終日の登山客ばかりだ。それにしても貧弱な装備に色々と考えさせられる。きちんと装備をされた方が「下までこのような(霧)状況で変わりませんよ」と言われた言葉が、私の中でこれは行くしかないかなと決意をさせてくれた。CLの判断は、五竜に上って来る登山客の装備やら変わらない霧の状況、過去の経験値から前進を決意したような行動に思えた。

霧の中だから全体像が掴めないが、私はとにかく赤や黄色の丸や矢印で示唆してあるルートを間違わないようにCLについて行くだけだった。雨の後だけに、鎖場や梯子、細い尾根を緊張しながら上ったり下りたりすることで時間の過ぎるのも忘れてしまう。2時間ぐらいすると時々霧がふっと切れた。ちょっと先まで見えるようになった。ちょっと離れてK嬢の写真も撮れる。なかなかイイ感じ。

先に行くCLが止まったまま動かないのが見えた。何かあったのか?近づくと雷鳥と対峙している。相手も慎重に様子を伺っている。お互いに行く手を阻まれて困惑状態。結局、雷鳥が飛んで行ってしまった。彼の生活を乱してしまい申し訳ない感じがした。

CLは天気が好転していることを感じたらしく例のごとく「ヨロレイホー」と歓喜のヨーデルを歌っている。暗雲が取り除かれて行くのを感じる。これで、前進が決定的になった。

分岐から2時間経過する頃には「北尾根の頭」を過ぎ、この厳しいキレットを少しずつ制覇していく自分が楽しいかなと感じる。程なく口ノ沢のコルで休憩を取る。お腹がすいた。このコルではまったく風を感じない。嘘のように静かな場所だ。キレット分岐からずっと富山県側の縦走路で、大陸からの風にさらされ続けてきたので、ホッとした休憩時間だった。

タイミングが良ければ鹿島槍の北峰が見えるくらいに天気が変化してきている。長い縦走路が見えてくる。さらに進むと「キレット小屋アト25分」と書かれた木札が鎖場に吊るされている。そのうち、「キレット小屋15分」という木札。ホントかしら?この15分がとても長く感じる時間だ。暫く行くと岩壁しか見えなかった前方に黒っぽい建物がちらっと見え、とても嬉しかった。

それにしてもカッコイイ山荘だ。赤い屋根でなくダークブラウンの屋根。すっかり冬支度の済んだ八峰キレット小屋(2470m)だ。キレット分岐から約3時間半。木札の25分は嘘だった。30分掛かった!この手の標識は嫌いだ。八峰キレットをそのまま通過。すぐ横手の岩場をぐんぐん上がると、北尾根の頭と思われる頂きとキレット小屋の全貌を眺めることが出来る。10分も上がると今度は「八峰キレット核心部 すれ違いに注意 気を付けて渡れ」と木札。これはホントと思う。鎖場からやや直角に近い長めの梯子をぐんぐん下りる。細い道があるような無いような岩稜。ここで本物の「キレット」を見ることが出来る。私はお恥ずかしい話だが、山用語を良く知らない。「キレット(切戸)」とは山稜がV字型に深く切れこんで低くなっているところ、割れ目。風隙(ふうげき)。一般にまどよりも幅が狭い。と後で知った。キレットの間から見えるのは谷底?山の下部だ。凄い場所だ。ガスが切れてきて怖さも倍増だ。

そんな中、ここですれ違った登山客が二人、一人は単独女性で種池山荘から来たと言う。五竜山荘にはぎりぎりCLが気を付けて行くよう促す。もう一人は男性で、呑気に厳しいからキレット小屋に泊まるという。え!キレット小屋は昨日で終了して、営業していないとCLが伝える。慌てていたが仕方がない五竜まで頑張るようにCLが話をした。こんな厳しい所で困ったものだ。

キレット小屋から1時間25分くらいで鹿島槍北峰分岐に達した。そこから北峰へは9分、ガラガラ石を上がる。残念なことに丁度山頂(2842m)にはガスが立ち込めてきた。南峰すら見えない。感動のはずが・・なしで下山した。吊尾根を経て南峰に上がる。雪渓を横目に見ながらの縦走



晴れて来た



キレット小屋



七竈

キレット (切戸)



路だ。上部の岩をグングン上り30分で登頂。南峰(2889m)の方は標高が47m高い。結局ここでもガスが多くて、眺望なしで下りざるを得なかった事はとても残念だった。

冷池山荘まで下りの開始だ。鹿島槍ヶ岳南峰からの山道は長野県側にある。ガスは山の中腹以上の上部に停滞している。富山県側からの冷たい風に吹かれながらガラガラの縦走路を歩く。悔しい事に10分位経過するとガスも少しずつ散ってしまい青い空がチラチラと見えるではないか。布引岳(2683m)に到着する頃にはすっかりガスも晴れて、鹿島槍ヶ岳鎌尾根、東尾根も綺麗に伸びている。何と言うタイミング。仕方がない。ここまで来れたことに感謝。

森林限界に達すると白馬連山高山植物帯 特別天然記念物に指定されただけあり、「歩道外は立ち入り禁止」の立て看板が多い。ナナカマドの赤い実、実の付いたハイマツ、紅葉したチングルマは綺麗だ。遠くには夏訪れた槍ヶ岳が見える。天気もすっかり回復し、日差しが眩しい。それと同時に暑い。ヘルメットを外し、レインウェア、フリースも脱ぎ、夏のウェアになって冷池山荘を目指す。CLは山荘に到着したらこの一番に生ビールとしきりに言っている。

布引岳から45分もすると冷池山荘のテント場に到着。そこから7分下がり冷池山荘入口。鹿島槍ヶ岳南峰から1時間45分。出発から8時間30分。本当に頑張った。お疲れ様でした。冷池山荘(つべたいけ 2410m)は赤い屋根で山荘内は小奇麗な小屋だ。宿泊したのが日曜日だったが結構な人でにぎわっている。労山割引で一泊二食付 ¥9500を¥9000だった。個室の割り増しは¥1000だが、個室に宿泊することにした。

外にはテーブルがあり、CLは早々にクリーミーな泡の生ビールを飲み干して、缶ビール、熱燗とやっている。熱燗は注文すれば届けてくれる。CLはこのサービスを豪く気に入ったようだ。単に溢されると困るからだと思うが……。山荘で頂けるお水は1Lと決まっているので、早々に頂戴した。外は寒いのでそこそこで、談話室に行き、夕陽に照らし出された爺ヶ岳を眺める。

17時を過ぎると、雲海が谷を覆って見事だ。外に出て眺める。空との際が夕焼けに映し出され虹色で美しい。地の底からふつふつと湧いてくるような雲海だった。K嬢は飽きたらず、テント場まで雲海を観に行った。18時からの夕食を堪能し、早朝のCLの際どい選択と仲間に心から感謝した。

その他の記述(後藤)

1. 五竜山荘は、白馬観光のMさんに依頼した。個室をいただき、サービスは、まあまあ良かった。
2. 個室だったが、混んで来て男女2名来室。明日は鹿島と話すと、男性が何回も「五竜の下りは気を付けて」という。私は久しぶりだが、そんなに悪かったか??そしたら彼らは早朝五竜に上り、頂上下で会った、そしたらまた、同じセリフをいった。そんなに「素人」に見えたかな。(笑い)
3. キレット小屋から総勢25名くらい五竜に縦走。総じて軽装が目立った。手袋なし・カップなし・帽子なし・靴はズック履き・ザックはペラペラ。山ガールとおぼしき者がバテバテだった。安全登山に関わる装備は、なさそう。最後に会った数名は、種池ヒュッテから来たという。この場合、9時間+2時間掛かるので、相当厳しい。計画が甘い。
4. 翌朝、五竜まで行く61歳の単独行と会話。昨日は、学生が五竜に向かったが、鹿島の下りが氷結していたので、帰って来たと言っていた。この時期、北面はちょっと冷えれば厳しいかも。オジさんは、多分、行ったでしょう。

参加者ひとこと

後藤 「キレット小屋から、鹿島の上り、約372m厳しかった」

掛橋 「朝の天候の変化にびっくりぽん。縦走路では、霧で周りの景色が見えないおかげで、あまり怖く感じず、歩くことに集中できたような気がします。午後からの天候の変化に、また、びっくりぽん」



南峰頂上



ヤレヤレ

鹿島槍下り



爺ヶ岳方面

稚児車

冷池山荘





美女三人 (+小屋の方)



鹿島美女！！

飲んだ熱燗
二本いただいた
美味しかった！！



夕食



談話室



夕食風景

おわり